

第1章

上位・関連計画及び都市計画を 取り巻く社会情勢

1－1 上位・関連計画の整理

1－2 社会情勢の変化

第1章 上位・関連計画及び都市計画を取り巻く社会情勢

1-1 上位・関連計画の整理

(1) 「第6次阿久比町総合計画」(令和8年(2026年)6月部分改訂)

計画期間	令和3年度(2021年)～令和12年度(2030年)
まちづくりの基本理念	①「安全・安心・安定」を基本に、豊かな自然と調和した快適なまちづくり ②「次世代につなぐ」基盤を固め、持続可能な幸せを目指すまちづくり ③「みんなで創る」パートナーシップのまちづくり
まちの将来像	「輝く子どもたちを みどりが包むまち・あぐい」 (持続可能アクションプラン2030)
将来人口	令和42年度(2060年度)の将来人口：約28,000人
基本目標	【基本目標1】自然と調和した心地よさが感じられるまち 【基本目標2】豊かな自然と共生する安全・安心なまち 【基本目標3】ともに生きる健康・福祉のまち 【基本目標4】ひとが輝く教育・文化のまち 【基本目標5】未来へつなぐ産業のまち 【基本目標6】みんなの思いがカタチを成すまち
土地利用構想図	 凡 例 - 高速交通軸 - 広域交通軸 - 主要道路 - 鉄道 - 主要河川 - アメニティ軸 (知多半島サイクリングロード等) - 住居系ゾーン - 商業系ゾーン - 工業系ゾーン - 農業系ゾーン - 自然環境系ゾーン - 中心商業・業務拠点 - 交通拠点 - レクリエーション拠点 - 緑のふれあい交流拠点 注：この図は、長期的な視野により目指すべき都市の姿を想定したものであり、具体のルートや位置、規模を想定したものではありません。

(2)「知多都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(愛知県)」(平成31年(2019年)3月)

計画期間	【基準年次】平成30年(2018年) 【目標年次】令和12年(2030年)
基本理念	広域交流拠点や地域特性を活かした特色ある産業が充実し、 魅力ある暮らしを支える都市づくり
都市づくりの目標	①暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換 (主な目標) ・活力あるまちなかの形成 ・地域コミュニティが維持された市街地の形成 ・暮らしの安心を支える基盤の整備 ②リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進 (主な目標) ・観光資源、自然資源などの地域資源や中部国際空港を活かした地域づくり(対流の促進、にぎわいの創出) ・リニア開業を見据えた質の高い交通環境の形成 ・名古屋駅との連携強化 ③力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進 (主な目標) ・新たな産業用地の確保(既存産業の高度化、次世代産業の創出、新たな産業立地の推進) ・産業集積地などへのアクセス道路の整備 ④大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保 (主な目標) ・市街地の災害の防止・軽減(土地利用の適正な規制・誘導、都市基盤施設の整備・耐震化) ・安全安心に移動できる都市空間の形成 ⑤自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進 (主な目標) ・豊かな自然環境の保全(無秩序な開発の抑制、適正な土地利用の規制・誘導) ・都市部における低炭素化(集約型都市構造への転換、建築物の低炭素化、緑地の保全、緑化の推進)
将来都市構造図	将来都市構造図 高規格幹線道路 地域高規格道路 主な道路 鉄道(新幹線) 鉄道 主な河川・運河 主な公園・緑地 自然公園(特別地域) 区域拠点 都市拠点 広域交流・物流拠点 市街地ゾーン 工業ゾーン 農地・森林ゾーン 阿久比駅周辺 (都市拠点) ※市街地ゾーンおよび工業ゾーンは H31年の概ねの市街化区域を表示し ています

(3)「第2期阿久比町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和3年(2021年)3月)

計画期間	令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度）																																				
目指すべき将来の方向性	①社会増の維持・確保に向けて ・質が高く安定した雇用の場の確保（産業振興、企業誘致） ・選ばれる町としての魅力向上（定住につながる環境づくり、積極的な情報発信） ②自然増の維持に向けて ・若い世代の結婚や妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援の充実 ③社会減の抑制に向けて ・安全で安心して暮らせるまちづくりの推進（地域コミュニティの活性化、周辺市町村との広域連携）																																				
将来の人口展望	・令和42年（2060年）において、約28,000人の確保を目指す。 ・目標年度である令和7年度（2025年度）の人口見込みは29,010人。 阿久比町人口ビジョンにおける人口の将来展望 <table><thead><tr><th>年</th><th>国立社会保障・人口問題研究所推定値 (人)</th><th>人口の将来展望シミュレーション値 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27 2015</td><td>27,747</td><td>27,747</td></tr><tr><td>R2 2020</td><td>28,980</td><td>28,770</td></tr><tr><td>R7 2025</td><td>29,190</td><td>29,010</td></tr><tr><td>R12 2030</td><td>29,290</td><td>29,090</td></tr><tr><td>R17 2035</td><td>29,080</td><td>28,990</td></tr><tr><td>R22 2040</td><td>28,810</td><td>28,670</td></tr><tr><td>R27 2045</td><td>28,740</td><td>28,230</td></tr><tr><td>R32 2050</td><td>28,670</td><td>27,760</td></tr><tr><td>R37 2055</td><td>28,550</td><td>27,210</td></tr><tr><td>R42 2060</td><td>28,320</td><td>26,530</td></tr><tr><td>R47 2065</td><td>27,900</td><td>25,710</td></tr></tbody></table> 出典：内閣府地方創生推進室「将来人口推計のためのワークシート」	年	国立社会保障・人口問題研究所推定値 (人)	人口の将来展望シミュレーション値 (人)	H27 2015	27,747	27,747	R2 2020	28,980	28,770	R7 2025	29,190	29,010	R12 2030	29,290	29,090	R17 2035	29,080	28,990	R22 2040	28,810	28,670	R27 2045	28,740	28,230	R32 2050	28,670	27,760	R37 2055	28,550	27,210	R42 2060	28,320	26,530	R47 2065	27,900	25,710
年	国立社会保障・人口問題研究所推定値 (人)	人口の将来展望シミュレーション値 (人)																																			
H27 2015	27,747	27,747																																			
R2 2020	28,980	28,770																																			
R7 2025	29,190	29,010																																			
R12 2030	29,290	29,090																																			
R17 2035	29,080	28,990																																			
R22 2040	28,810	28,670																																			
R27 2045	28,740	28,230																																			
R32 2050	28,670	27,760																																			
R37 2055	28,550	27,210																																			
R42 2060	28,320	26,530																																			
R47 2065	27,900	25,710																																			
基本目標	①安定した雇用を創出する ・阿久比町の強みを活かした地域の競争力強化 ・だれもが働きやすい職場環境づくり ②阿久比町への新しい人の流れをつくる ・移住・定住促進につながるシティプロモーション 知多半島で選ばれるまち No.1 へ ・阿久比町が持つ資源を活用した地域の魅力やブランド力の向上 ・中部国際空港や名古屋駅を利用する旅行者等の阿久比町への来訪促進 ③若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる ・結婚・妊娠・出産から育児に至るまで切れ目のない一貫した支援 ・子どもや子育てを地域全体で見守り、支援する環境づくり ④時代に合った地域づくり、安全・安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する ・地域コミュニティの活性化と安全で安心して暮らせるパートナーシップのまちの実現 ・高齢者がいつまでも住み慣れた地域で健康に暮らすことができる仕組みづくり ・名古屋市並びに周辺市町村との広域連携によるまちづくり																																				

(4) 阿久比町緑の基本計画（令和3年(2021年)3月）

計画期間	令和3年（2021年）～令和12年（2030年）
緑の将来像	「自然との共生による未来につながる都市環境の創出」 緑の骨格となる阿久比川、農地、丘陵地の緑の保全を基本とし、市街地や集落における公園や社寺林などのオープンスペースの確保を図るとともに、公共施設用地や民有地などの緑化を促進し、都市全域における快適で未来につながる都市環境の創出を図ります。 凡 例 ■ 緑の軸（河川） ● 緑のネットワーク ● 緑の拠点 ■ 農地 ■ 丘陵地 ■ 河川 --- 都市計画区域
計画の 基本方針・施策	①緑の保全の方針 ・阿久比町を特徴づける緑地の保全 ・生物多様性に資する緑地の保全 ②緑の創出の方針 ・地域バランスや住民ニーズを踏まえた公園等の整備 ・多様な機能を発揮する緑地の保全・整備 ③緑の育成の方針 ・緑地の維持・管理体制の構築

1-2 社会情勢の変化

都市計画や土地利用に係る昨今の社会情勢の変化として、次のものがあげられます。

(1)人口減少・少子高齢化社会への対応(人口減少・少子高齢化)

我が国では平成20年(2008年)をピークに人口減少局面に入り、今後は、さらに急速な高齢化が進行することが予測されています。

こうした人口減少や少子高齢化は、労働力の減少や医療・介護の需要の増加、地域コミュニティの希薄化に伴う高齢者世帯・子育て世帯の孤立などを引き起こすことが懸念されます。

そのため、人口減少・少子高齢化社会に対応したまちづくりが求められています。

(2)集約型都市構造への転換による都市機能の維持・確保(コンパクト+ネットワーク)

今後、人口減少により市街地の低密度化が進むと、一定の人口集積に支えられている商業・業務、医療・福祉などの都市機能や公共交通の維持・存続が困難となり、日常の生活が不便になることが懸念されます。

そのため、集約型都市構造への転換を図り、既成市街地の人口密度や既存の都市機能を維持・確保することが求められています。

(3)既存ストックの適切な維持・管理及び有効活用(都市経営の健全化)

我が国では、戦後の復興期から高度経済成長期にかけて集中的に整備されたインフラ施設の老朽化が進んでおり、今後、多額の修繕・更新費用が必要となります。

そのため、既存ストックの適切な維持・管理や有効活用を図り、効率的な公共投資に努め、健全な都市経営を実現することが求められています。

(4)南海トラフ地震による災害リスクへの対応(安全・安心)

東日本大震災や台風などによる豪雨災害を契機として、防災や減災に対する意識が変化しています。また、愛知県では、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が懸念されています。

そのため、事前防災対策の充実化を図るなど、災害リスクに対応したまちづくりが求められています。

(5)低炭素・循環型社会の構築(地球環境問題)

地球温暖化や異常気象など、地球規模の環境問題が深刻化しています。

そのため、低炭素・循環型社会の構築に向け、住民・事業者・行政などが一体となって取り組むことが求められています。

(6)豊かな自然環境との共生(都市の個性・魅力、生物多様性)

公園・緑地や農地、社寺林などの緑は、美しい景観の形成やレクリエーションの場の提供、生物多様性の確保など、都市の暮らしの中でゆとりやうるおいをもたらす貴重な資源です。

そのため、自然環境の保全や生態系ネットワークの形成を図るなど、豊かな自然環境と共生したまちづくりが求められています。

(7)産業の活性化(伝統的な産業の継承と次世代産業の育成)

愛知県は全国有数の農業県であり、知多半島では、愛知用水の通水と農業生産基盤の整備により、畜産、花き、果樹などの多様な農業が行われているほか、窯業や醸造業などの地場産業が盛んです。

また近年では、ICTやIoT、ビッグデータ、AIなどの新技術の発達が目覚ましく、まちづくりや社会生活、産業分野において積極的な活用を推進し、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる人間中心の社会「Society5.0」の実現が求められています。

そのため、知多半島道路の広域交通利便性を活かし、既存産業の高度化や次世代産業の創出など、地域に根ざした産業の質の向上や活性化が求められています。

(8)観光交流の拡大(観光交流の活性化)

愛知県における観光客は年間約1億人であり、知多半島では、中部国際空港や豊かな自然環境、農産物・海産物、山車行事などの歴史・文化資源、窯業、醸造業などの地場産業を活かした産業観光が行われています。

そのため、更なる観光交流の拡大に向けて、観光業の活性化を図ることが求められています。

(9)持続可能な社会環境づくり(SDGs)の推進

貧困や飢餓といった問題から、働きがいや経済成長、気候変動に至るまで、21 世紀の世界が抱える課題に対して、国際的な動きとして、令和 12 年（2030 年）までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（SDGs）が掲げられ、我が国でも積極的な取り組みを推進しています。

SDGs の目標のひとつ「11 持続可能な都市」では、「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」をテーマとしており、安全な公共交通の提供や災害に対する強靱さの確保、都市の大気汚染への対応などが求められています。

(10)感染症などの新たな脅威との共存

令和 2 年（2020 年）に発生した新型コロナウイルス感染症は世界中で猛威を振るい、国民の生活や経済活動に大きなダメージを与えました。今後は、パンデミックを想定した医療体制や国民の生活を守るセーフティネットの在り方が問われています。

まちづくりに際しても、住民の安全・安心の確保とともに、新しい生活様式や暮らし方の多様化に対応した社会基盤の整備や仕組みの構築が求められています。